

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業 “Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Hwaseong Middle School



安芸高田市立美土里中学校



交流授業

学 年：第1～3学年

単元名：第1学年 Unit 4 Friends in New Zealand

第2学年 Unit 6 Research Your Topic

第3学年 Stage Activity 2 Discover Japan

(NEW HORIZON English Course 1・2・3)

ねらい：外国人等と英語を使って主体的にコミュニケーションを図ることができる。

ブレイクアウトルームでの会話
(自己紹介)



会話が弾むと笑顔も増えてきました。

活動内容：

①挨拶・交流の流れの確認(全体)

教員同士での簡単な挨拶、全員で両国の母語での挨拶を行い、授業の流れを確認した。

②学校・地域・文化紹介(全体)

両校の生徒が複数のグループに分かれ、それぞれのテーマごとにスライドを用いて紹介した。

本校

第1学年…美土里の町紹介(場所・伝統文化等)

第2学年…広島紹介(食べ物・有名人・偉人・観光地等)

第3学年…美土里中学校紹介(制服・給食・部活・教科等)

海外校

全学年…学校紹介・地域紹介・日本と韓国の違い紹介等

③自己紹介(グループ)

両校の生徒が4つまたは5つのグループに分かれてブレイクアウトルームに入り、名前や好きなことについて互いに自己紹介をした。自己紹介の後には、互いのことについて質問し合ったり、日本語と韓国語を教え合ったりした。アニメやサッカーの話題で盛り上がっていた。

④振り返り(全体)

両校の生徒代表が感想を述べたり、全員で写真を撮ったりした。最後は全員で両国の母語で挨拶を行った。

«接続方法：Zoom»

大切にしたこと

- ・全校生徒が交流できるように各学年1回ずつ交流を実施した。
- ・生徒一人一人が話す機会を増やせるように、小グループでの交流を取り入れた。
- ・言葉だけで伝わらない場合や聞き取れない場合を想定して、コミュニケーションがうまく取れるようにするためにどうしたらよいか考えさせ、スライドやメモを準備した。
- ・常活動等において、様々なトピックや場面で自分の意見が簡単な英語で言えるように活動を仕組んだ。

交流を終えて

生徒の声

- ・言いたいことが伝わった時、とても嬉しかった。
- ・自分の好きなアニメを知っていたり、ゲームの話で盛り上がったりして楽しかった。
- ・最初は緊張したけど、話していくうちにとても楽しくなった。またやりたい！
- ・今まで習ったことを使って英語でたくさんの会話をするのが楽しかった。
- ・英語で他の国の人も交流してみたいと思った。
- ・習った英語で文を作れば、意外と会話ができるということを知った。

先生の声

- ・英語が苦手な生徒も一生懸命自分のことを伝えようとしている姿が見られてとても嬉しかった。相手が言っていることが聞き取れないときも“One more time, please.”等言いながら会話を続けていた。英語で話すことに対する生徒の意欲が高めることができたと感じた。
- ・最初の交流授業前に事前接続テストとして相手校と短時間つないだ。その時はうまく話せず沈黙があったが、本番に向けて生徒自身が質問を考えたり英語表現を練習したりして主体的に学ぶ姿が見られた。目的が明確であることにより、生徒が粘り強く課題に取り組むことができたと感じた。